



# 夢を持って 羽ばたけ 新成人

成人の日の前日、1月8日、穏やかな天気の中、開催された今年の成人式。市内在住や市出身の新成人712人が出席しました。会場の東総文化会館には、開式の1時間以上前から、新成人が集まりはじめ、久しぶりの友だちとの再会を喜び合っていました。

式辞で伊藤市長は「ここにいる新成人の皆さんは、新しい旭市のまちづくりの中心になってもらう方たちだ。夢を実現できる、幸せな人生を歩んでほしい」と激励の言葉をかけました。来賓祝辞のあと行われた新成人による意見発表では、市内5中学校の出身者1人ずつ、合わせて5人が、将来の夢や希望、これまで支えてくれた家族や友だちへの感謝の言葉などを話しました。続いて、アトラクションで袋区のお囃子と獅子舞が披露され、郷土芸能を鑑賞したあと、中学時代の思い出のライドが上映、出席者は中学時代を楽しく振り返っていました。



▲国歌斉唱ピアノ伴奏  
佐藤麻彩さん（井戸野）



◀開式の辞  
浪川愛子さん（後草）



▶閉式の辞  
磯部真吾さん（萬力）



▶式辞を述べる伊藤市長



▶記念品贈呈  
伊藤翔さん（鎌数）、  
関根千英美さん（飯岡）



▶袋お囃子会による獅子舞



## 人生の新たなスタートライン

岩井 和貴さん（八）

私は今、旭市を離れ市原市にある造船会社で事務職の仕事をしています。地元で就職する仲間が多い中、初めは実家を離れ生活できるか不安でしたが、会社の寮ということもあり衣食住には不自由せず仕事に打ち込んでいます。しかし、今まで関心の無かった業種だったので、仕事の内容、造船業に関する知識など覚えることがたくさんありました。周りの人ほとんどが年上の方なので礼儀や言葉遣いなど仕事以外にも神経を使うことが多く、入社してから間もないころは一日が終わると疲れ果てていました。中学、高校と陸上部に所属して活発に動いていた私にはこの仕事は自分には合っていないと思う時期もありました。そんなとき、

励ましてくれたのは人生の先輩でもある両親からの言葉でした。両親の話を聞いてから、やってもないことを初めから諦めてはダメだと思い、考え方も前向きになってきました。また、毎日仕事で行き詰っていても仕方ないと思い、休日を利用していろいろな所へ外出したり、中学のころから趣味だったギターでバンドを組んで活動しています。

学生時代、部活動や勉強の傍ら、文化祭でライブをやったりしたのが何より一番楽しかったです。そのころから、ギターの魅力にはまり一日一回は必ず弾いていて三度の飯よりもギターという感じでした。こんな楽しいことがずっと続けられたらと思います、将来の夢を抱くようになりました。それはプロのギタリストとして活躍していくこと。

夢を持っているからこそ、それを叶えるために仕事やいろいろなことに一生懸命に取り組むことができると思います。諦めることなく夢をかなえるために努力することが大切です。



## 二十歳になったの抱負

齊藤 桃子さん（口）

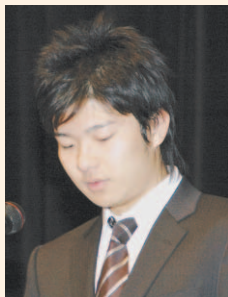
中学生のころ同じバレー部だったメンバーには特にいろいろな面で助けられ、

支えてもらいました。全員でひとつのチームとなって頑張り、最後の支部大会では

県でベストエイトに入ることができました。日々の練習や試合で鍛えた精神力は今の自分にすぐくプラスになっています。中学校での三年間は、私にとってすごく良い思い出になりました。

銚子西高の衛生看護科に入学してからは、想像していた高校生活とは違い、資格を取るために夕方遅くまで実習に頑張りました。高校生でありながら社会の中に入って実習を行い、患者さんや先輩看護師さんからたくさんのことを学びました。人との接し方や態度、言葉遣いなどは実際に接していくなかで自分にとって本当に良い経験ができたと思います。

私は今、看護師になるという夢を実現させるために、日々目標を持って頑張っています。きちんと考えて行動すること、自分にとって何が必要なのか、今何



## 感謝

渡辺 祐一さん（琴田・海上）

昨年の四月から英語を勉強するために、カナダのセントメアリーズ大学に半年間留学していました。ホームステイをしながら大学に通いました。カナダの家族はとても親切でおもしろく、本当の息子のようにかわいがってくれました。最初の一か月くらいは毎日の英語でストレスも溜まりましたが、外国の人と友だちになつたり、その友だちと旅行したりすることで、すぐに海外の生活に慣れることができたと思います。そして、留学中の体験

をすべきなのかわかるようになりました。その目標をクリアしていくことで、少しずつ成長することができました。何も考えずに行動することより、目標を持って行動することで自分にとって意味ある経験を積むこととなりました。目標をもって行動することの意味が、今ようやく理解できたように思います。

私がこうして頑張れるのは、いつも私のことを陰ながら支えてくれている家族がいたからです。毎日の実習や勉強でストレスが溜まり、両親に当たったこともありましたが。しかし、何も言わずいつも見守ってくれた父がいたから頑張れました。そして何より、いつも相談に乗ってくれた大切な友だちがいたからです。親身になって話を聞いてくれる友だちがいることは、本当に幸せなことだと思います。

や友だち、ホームステイの家族から、たくさんのお話を学び充実した生活を送ることができました。これからも英語の勉強を続けて、将来この留学を生かすことができたいと考えています。

人生それぞれの立場で、必ず誰かの世話になっているはず。今までも、家族や先生、友だちなどからいろいろなアドバイスを受けたと思います。もちろん仕事や勉強も大切ですが、若いうちにいろいろな経験したり、楽しんだりすること

も大切だと思えます。また、失敗することとたくさんありますが、その失敗を反省して、次に生かすことが大切だと考えています。

人生一度切りなので、過ぎてしまったことを後悔していません、前向きに毎日



### 感謝の思いを込めて

菅谷 繁さん（三川）

今、自分が元気でいられるのも、こうして元気で成人式を迎えられるのも、自分の生きてきたすべてが、親のおかげだと思っと思っています。父は二十年以上、嫌な顔ひとつせず、仕事をし、家族を養って

感謝の気持ちを持って過ごせたらいいなと思っっています。そして、周りの人にお世話になり、感謝するばかりだけでなく、人に優しく親切にできるよう、心がけたいと思っっています。

と、社会の厳しさ、生きていく上での大切なことを学ぶことができました。その一つ一つが、これからの人生で、糧となっ

きました。母は、毎日誰よりも遅く寝て、家事と仕事をし、同じく家族を養ってききました。二十年という長い年月をかけて、苦勞をし、僕をここまで育ててくれました。反抗をし、迷惑をかけても、優しく見守っていてくれました。そんな両親の苦勞と、頑張りのおかげで、僕は丈夫な体を持ち、好きなことをやれているのです。父の恩は山より高く、母の恩は海より深い。両親から受けた恩は、言葉では言い尽くせないほどたくさんあります。

その恩を、これからの成人としての人生の中で、返していきたいと思っっています。

僕がここまでやってこられたのは、親のおかげだけではありません。小学校や中学校、そして高校でお世話になった先生方にも、たくさんのお話を教えていただきましました。正しいこと、正しくないこ

最後に、今まで出会ったすべての人から学んだこと、与えられたもの、その掛け替えのないすばらしい宝を持つて、これからの社会人としての人生で、日々精進し、今まで出会った人、これから出会った人、そのすべての人に、「出会えて良かった」と思われるような人間になろうと思っっています。



### これからの自分

花香 真菜さん（萬歳）

私は今、大学の国際学部に通っっています。友だちにもよく何の勉強をしているのか、と聞かれます。活動分野は文化、政治、経済ととても幅広く、そこから自分の興味のあることを見つけていかなければなりません。友だちの中には、核問題に興味を持ちニューヨークで行われた国際会議に出席した者、東南アジアでのボランティアを通して、子どもたちと触れ合い、日本語教師を目指そうとしてる者、報道カメラマンになるために写真や英語など勉強している者など、夢を持つて頑張っている人たちがたくさんいます。

るようになりました。ボランティアであれ、旅行であれ理由は何にしる、時間が許す限り、もっとたくさんのお国を旅していきたいと思っっています。また、現地の人とたくさんコミュニケーションをとることによって、私を通して日本という国に興味を持ってもらえればいいなと思っっています。今はこういったことを仕事にできないか模索中です。ただの夢で終わらないように、ひとつずつ身近なことから頑張っしていきたいと思っっています。

そんな中、私はというと、一体何がしたいのか、何になりたいのか、まだ具体的に決まっっていません。今回、今自分が何をしたいのか、改めて考えてみることにしました。単純に今一番やりたいこと、それは世界中を旅して回ることです。歴史に残る大事件が起きた場所、世界遺産、教科書やメディアを通して見るのではなく、実際自分の目で見て、触れ、感じたいのです。

一市三町が合併し、新旭市となって初めて成人式となります。ひとり暮らしを始めて、改めて自分の生まれ育ったまちのすばらしさを感じさせられます。必ず、どこかで「ここ地元と似ている」という場所を探してしまします。近代的な発展は望みません。九十九里の海岸や田園地帯など今ある自然を残し、互いのまちの良いところを吸収し合い、旭市としてすばらしいまちになることを期待し、またこれから私たちが作り上げていきたいと思っっています。

昨年の夏にはインドに行っってきました。突然の熱に襲われたり、インド人に囲まれたり、身分制度の中で、暮らす人々の生活を目の当たりにしたり、怖い思いもしたけれど、その分良い経験になっだし、インドという国がとても身近に感じられ

思っことはまだ、たくさんあります。これから先、社会の荒波にもまれ押しつぶされそうになることもあるかもしれません。夢や希望を持ちつづけ、大地に根をはり、自分色の花を咲かせていきたいと思っっています。